

第5次総合振興計画における将来の目標人口について

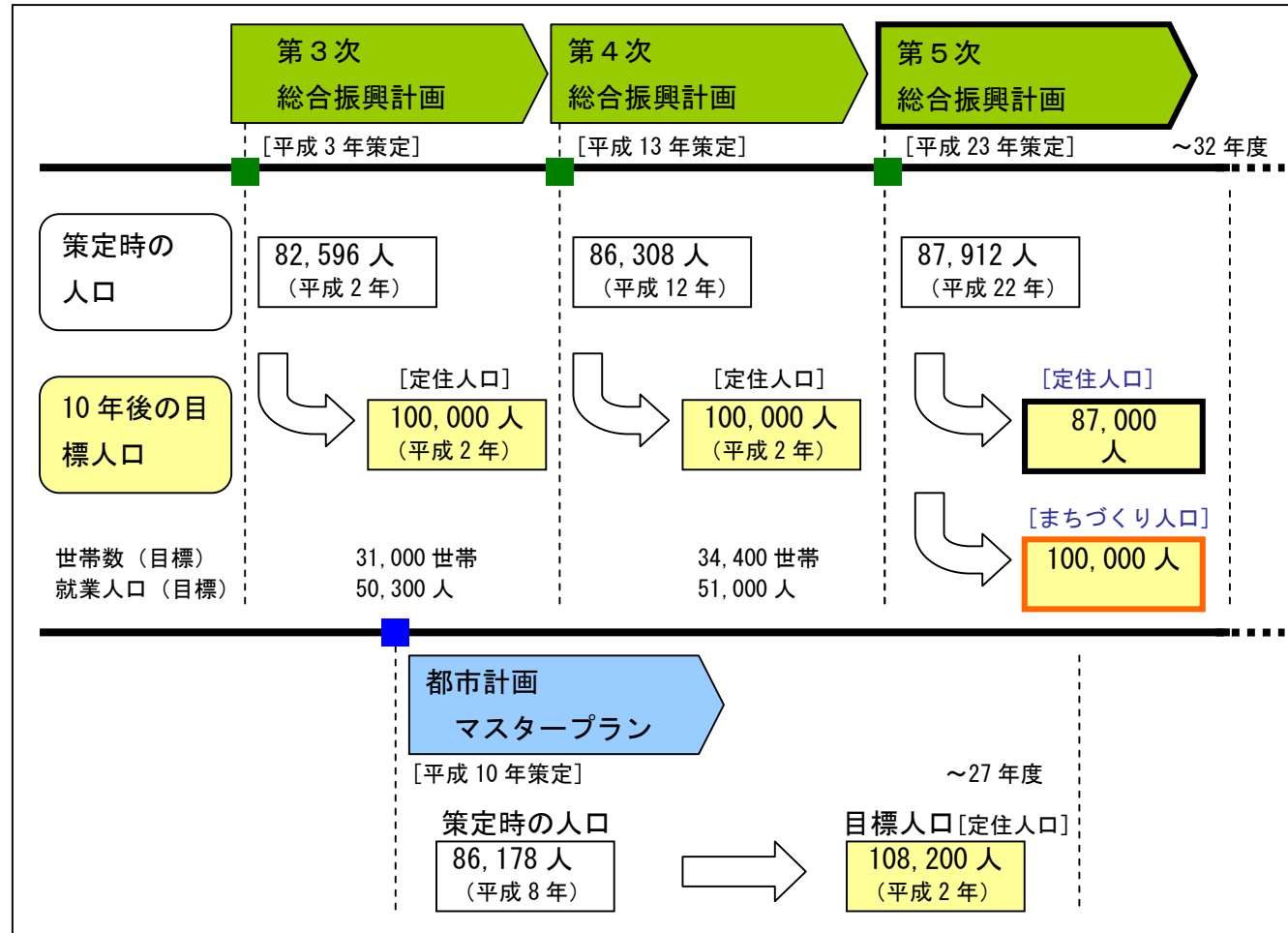


図 これまでの総合振興計画の目標人口

『定住人口』・『まちづくり人口』とは..

- ① 定住人口とは「夜間人口」のことです。
- ② 定住人口のうち、通勤・通学等により一定の人々が日中、市外へ流出します（流出人口）。
- ③ 逆に日中、市内へ流入する人々もいます（流入人口）。つまり、本市に通勤・通学や観光等で訪れる人々です。これを「交流人口」といいます。

人口が減ると税収が減ることはもちろん、地域の経済活動も縮小していきます。例えば、モノを買う人が少なくなる → 落ちるお金も少なくなる → 市民の収入が減る → さらにモノを買わなくなるという流れです。こうして地域の活力が失われていくと、さらに人口が流出していくという「負のスパイラル」に陥り、経済のパイはますます縮小していきます。

日本は人口減少社会に突入しています。その中で埼玉県は人口は、しばらくは増加が続くことが見込まれていますが、行田市は既に数年前から暫減傾向にあります。前述のとおり、人口が減ると経済のパイは縮小していく一方ですので、まず、これを食い止める必要があります。これが定住人口の「維持」です。このため、第5次行田市総合振興計画で掲げた各種施策を着実に実行していくことにより、維持に努めていきます。

さらに、本市の場合は恵まれた地域資源を数多く有していることから、これらを最大限有効に活用することで「交流人口」の増加に繋げ、これにより経済のパイを拡大していくという視点を加えたものです。

つまり、①-②+③ = 「昼間人口」のことを、第5次総合振興計画においては「まちづくり人口」と称し、10万人を目指すことで、市全体を活性化するものです。

第5次総合振興計画における目標定住人口の設定について

1. 人口推計方法について

人口推計については、『①コーホート変化率法』と『②コーホート要因法』の2種類があります。『①コーホート変化率法』とは、過去の人口実績から変化率を求め、その変化率をもとに将来人口を推計する方法です。一方、『②コーホート要因法』は生存率や純移動率を設定して、社会的移動が激しい場合などに適用する方法です。今回の推計については、住民基本台帳および外国人登録人口を基にした「①コーホート変化率法」で推計しています。行田市では、過去の人口実績に特殊な人口変動がほとんどなく、また、将来にわたっても特殊な人口変動が予測されにくいため、コーホート変化率法を適用しています。

2. 目標定住人口の設定について

全国的な人口減少社会の中、行田市においても人口減少傾向に歯止めをかけることは最も重要な課題のひとつです。今後、人口を増加させることはきわめて難しい状況です。そのため、次に示すソフト面を中心とした施策の展開により、おおむね人口の現状維持を図っていくことで、平成32年の目標定住人口を現状維持の87,000人に設定しています。

人口の方向	人口維持のための主要施策
○自然動態の増加促進	・子育て支援の充実による出生率の上昇
○自然動態の減少抑制	・高齢者の健康増進対策の推進 ・健康寿命の延伸
○社会動態の増加促進	・団塊世代の帰郷促進 ・交通利便性の向上 ・子育て支援や教育環境の充実
○社会動態の減少抑制	・観光振興や優良企業の誘致による雇用促進 ・企業・事業所の撤退抑制 ・市街地および発展創出拠点等のまちの活性化

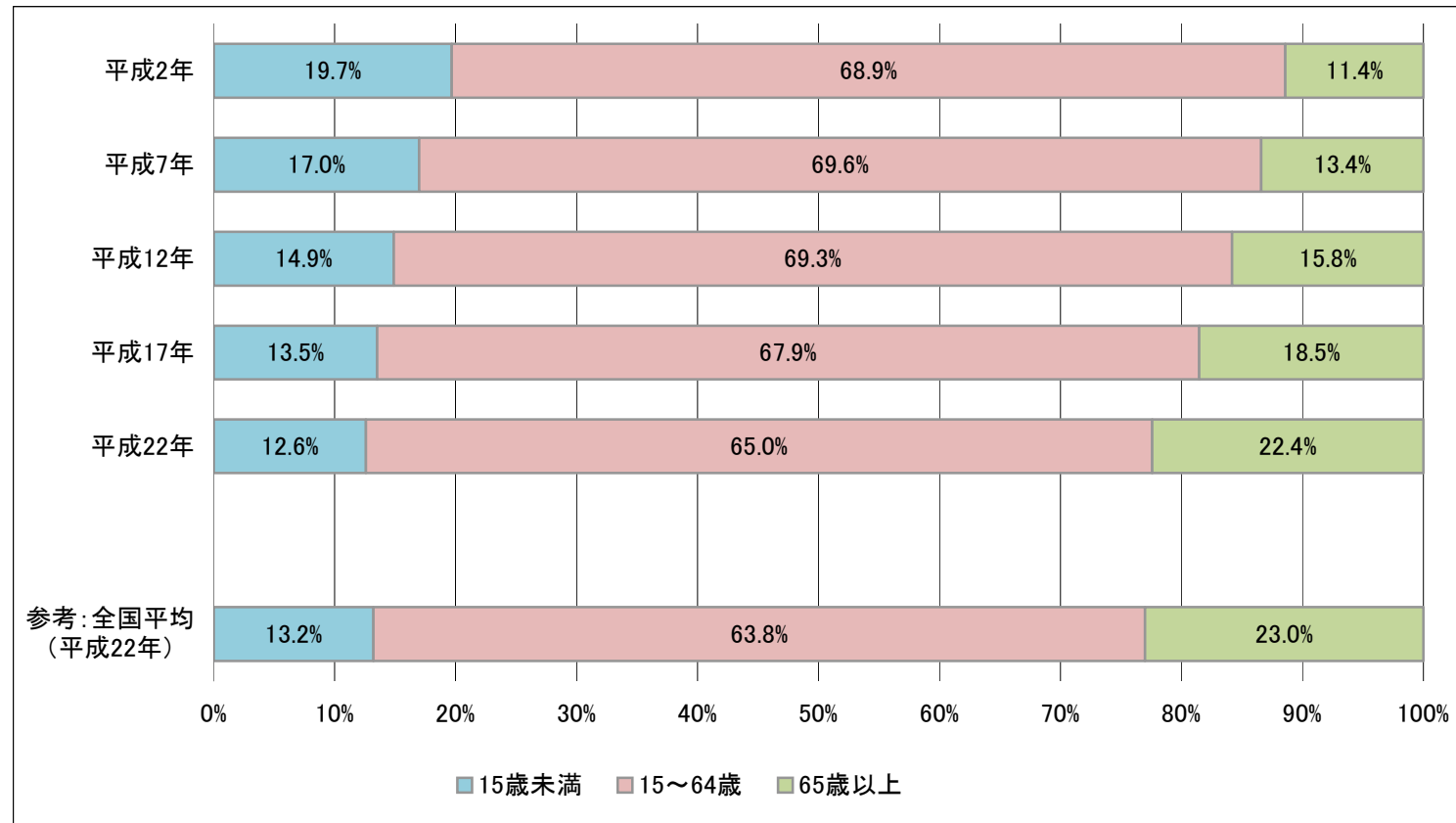
※自然動態については、子育て支援の充実による出生数の増加と高齢者の健康増進対策による死亡数の減少により、自然動態の増減を0にする（それぞれ年間700人程度）必要があります。  
※社会動態については、人口維持のための主要施策を効果的に展開することで、転入促進と転出抑制を図ること、年間500人程度の社会減を年間100人程度の社会減に転換する必要があります。

■現状値と目標値の比較

	平成20年		平成32年
自然動態の増減	-171人	→	±0人
社会動態の増減	-489人	→	-100人
人 口	89,236人	→	87,000人

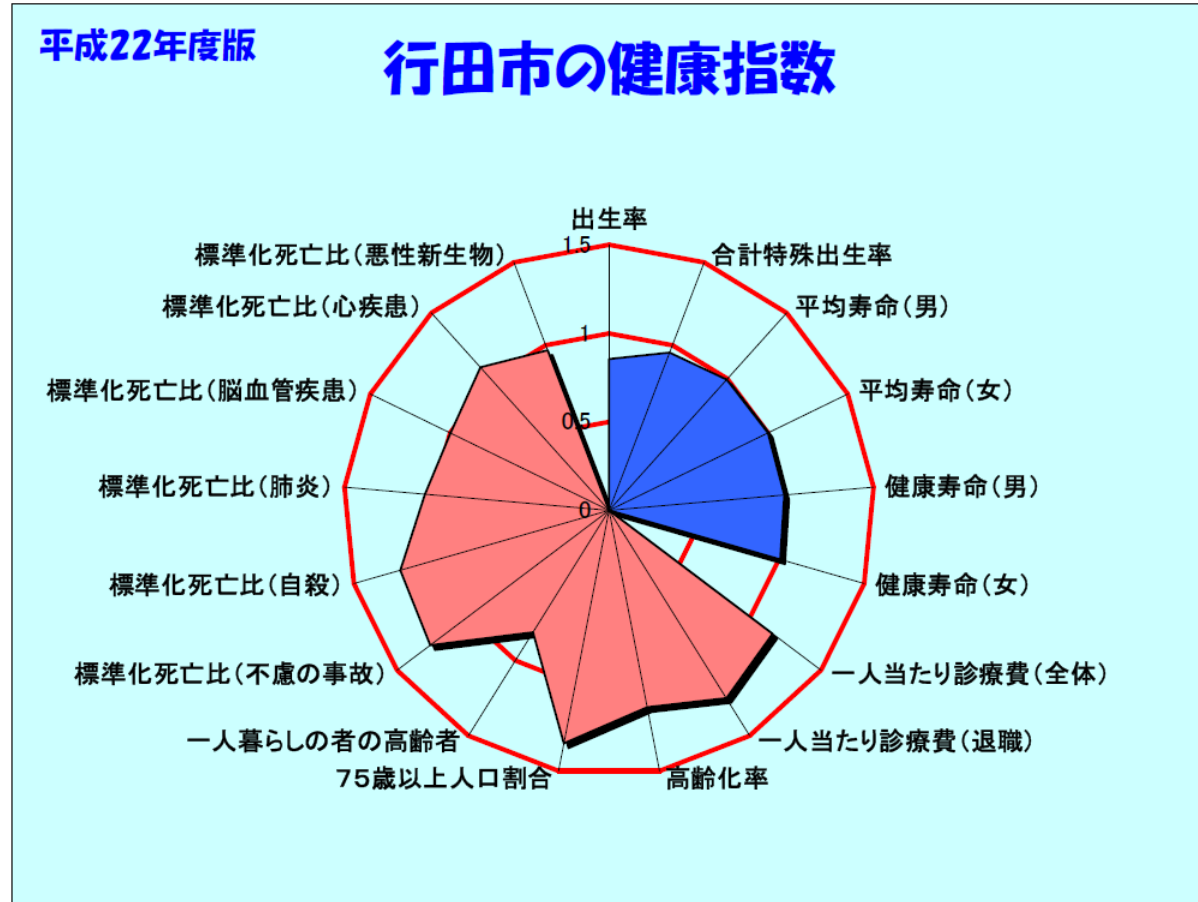
※平成22年の人口は87,912人（住民基本台帳および外国人登録人口）

年齢3区分別割合の推移（平成2年～平成22年）



資料：国勢調査





埼玉県を1とした健康指数

項目	値	概要
1 出生率	0.9	* 合計特殊出生率は1.13で、埼玉県の1.0倍です。 * 健康寿命(男)は、県内で36位です。 * 健康寿命(女)は、県内で26位です。 * 一人当たりの診療費(全体)は219,970円で、埼玉県の1.2倍です。 * 一人当たりの診療費(退職)は371,323円で、埼玉県の1.3倍です。 * 高齢化率は18.6%で、埼玉県の1.1倍です。 * 75歳以上人口割合は8.4%で、埼玉県の1.3倍です。 * 三大疾患のうち、埼玉県より標準化死亡比が高いのは心疾患です。 * 標準化死亡比が低いのは悪性新生物、脳血管疾患です。
2 合計特殊出生率	1.0	
3 平均寿命(男)	1.0	
4 平均寿命(女)	1.0	
5 健康寿命(男)	1.0	
6 健康寿命(女)	1.0	
7 一人当たり診療費(全体)	1.2	
8 一人当たり診療費(退職)	1.3	
9 高齢化率	1.1	
10 75歳以上人口割合	1.3	
11 一人暮らしの高齢者	0.8	
12 標準化死亡比(悪性新生物)	1.0	
13 標準化死亡比(心疾患)	1.1	
14 標準化死亡比(脳血管疾患)	1.0	
15 標準化死亡比(肺炎)	1.0	
16 標準化死亡比(自殺)	1.2	
17 標準化死亡比(不慮の事故)	1.3	

(資料)  
 一人当たり診療費：国民健康保険事業状況(平成20年度)  
 高齢化率・75歳以上人口の割合・一人暮らしの高齢者：国勢調査  
 平均寿命・健康寿命：埼玉県の健康寿命算出ソフト「健寿君」(平成21年)  
 標準化死亡比：埼玉県の年齢調整死亡率とSMR算出ソフト「スマール君」(平成17年～21年)  
 ただし肺炎は「ツール君」(平成17年～21年)  
 出生率・合計特殊出生率：「ツール君」(平成17年～21年)

平成22年度版

行田市の現状

[人口の状況]

人口静態(平成22年) 単位:人

	総数	男	女
人口	87,912	43,754	44,158
65歳以上人口	19,079	8,270	10,809

資料:埼玉県町(丁)字別人口調査

人口動態(平成21年) 単位:人

	総数	男	女
出生数	581	313	268
死亡数	808	448	360
出生率	6.6	(人口千対)	
死亡率	912.5	(人口10万対)	

資料:人口動態統計

世帯(平成17年)

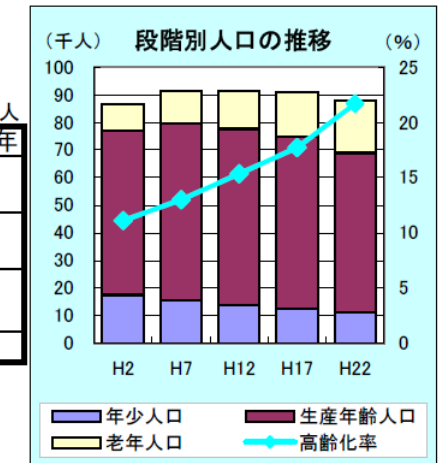
世帯数	30,241
一世帯人数	2.94

資料:国勢調査

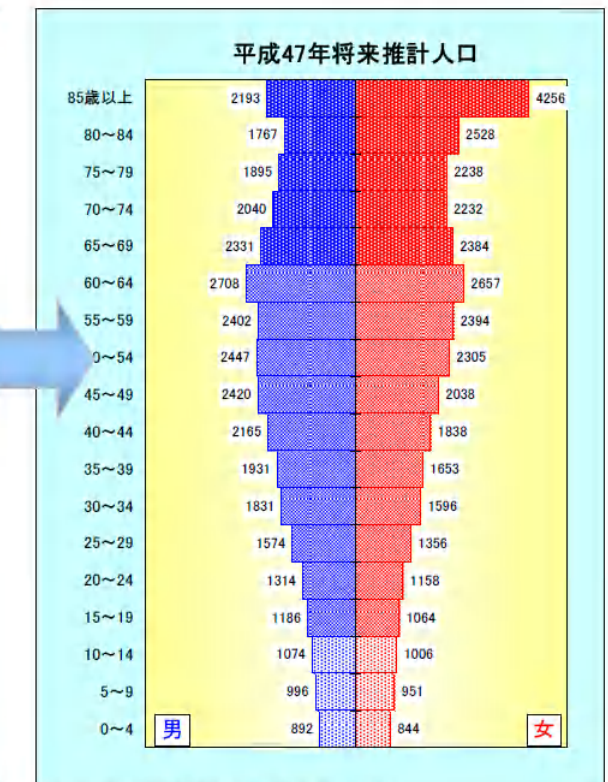
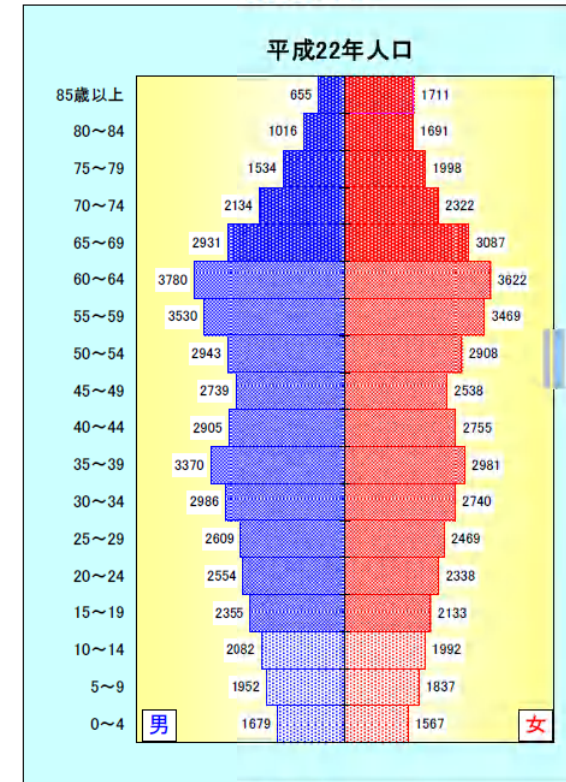
段階別人口の推移 単位:人

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
年少人口(0~14歳)	17,483	15,630	13,804	12,395	11,109
生産年齢人口(15~64歳)	59,633	63,782	63,756	62,493	57,724
老年人口(65歳以上)	9,634	11,875	14,060	16,144	19,079
高齢化率	11.1%	13.0%	15.3%	17.7%	21.7%

資料:埼玉県町(丁)字別人口調査



人口構成の変化(将来推計人口)



資料:埼玉県町(丁)字別人口調査

資料:国立社会保障・人口問題研究所  
 「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)  
 (平成17年国勢調査人口を基準に推計)



**[ 平均寿命と健康寿命 ]**  
(平成21年)

	総数	男	女
平均寿命(0歳平均余命)	—	78.81	85.52
65歳健康寿命	—	16.47	19.67
65歳要介護期間	—	1.54	3.51
要介護認定率(65歳以上)	14.97	9.96	18.79

資料: 埼玉県の健康寿命算出ソフト「健寿君」

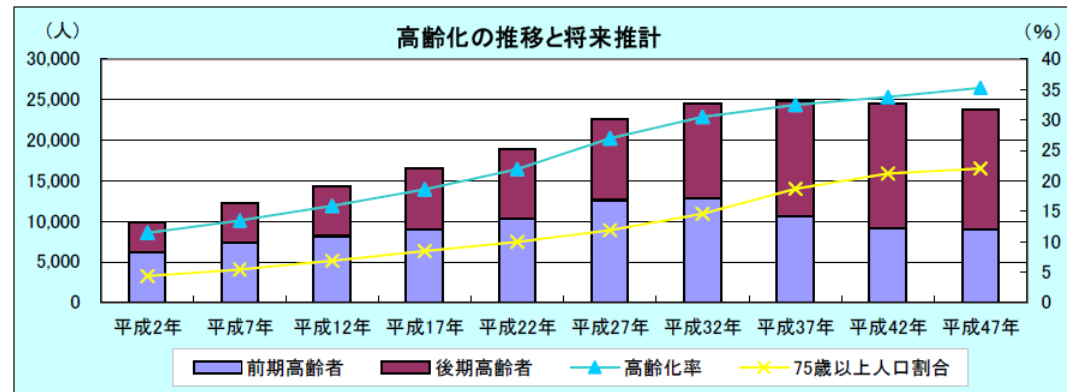
**[ 高齢化の状況 ]**

高齢化の推移と将来推計

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成47年
	国勢調査人口				将来推計人口				
総人口	87,014	90,427	90,530	88,815	86,358	83,609	80,330	76,580	67,666
高齢化率	11.4%	13.5%	15.9%	18.6%	21.9%	27.0%	30.5%	32.5%	35.3%
高齢者人口(65歳以上)	9,931	12,188	14,352	16,505	18,932	22,534	24,512	24,866	23,865
前期高齢者(65~74歳)	6,137	7,323	8,134	9,015	10,362	12,604	12,823	10,569	8,987
後期高齢者(75歳以上)	3,794	4,865	6,218	7,490	8,570	9,930	11,689	14,297	14,878

資料: 平成17年までは国勢調査

平成22年以降は「日本の市町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」「平成17年国勢調査人口を基準に推計」

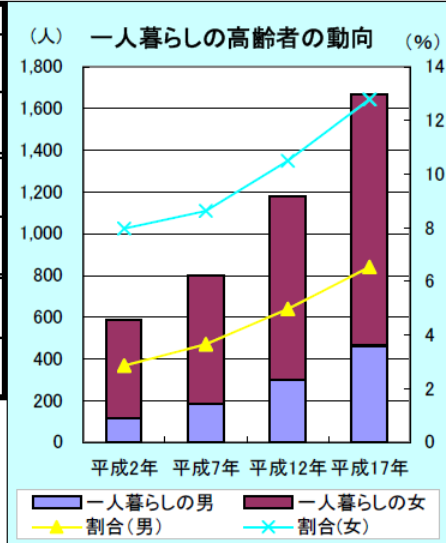


一人暮らしの高齢者の動向

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
(総数)				
一人暮らしの者	584	801	1,176	1,667
高齢者に占める割合	5.9%	6.6%	8.2%	10.1%
(男)				
一人暮らしの者	116	184	297	463
高齢者に占める割合	2.9%	3.7%	5.0%	6.5%
(女)				
一人暮らしの者	468	617	879	1,204
高齢者に占める割合	8.0%	8.6%	10.5%	12.8%

資料: 国勢調査

※棒グラフは「一人暮らしの者」を示し、国勢調査の「単独世帯」を指す。  
※折れ線グラフは高齢者人口に占める「一人暮らしの者」の割合を示す。



平成22年国勢調査速報より (埼玉県総務部統計課資料)

1 埼玉県の人口及び世帯数

●平成22年国勢調査結果による埼玉県の人口は719万4,957人で、前回調査(平成17年)と比べ、14万714人(約2.0%)増加しました。

●世帯数は、284万2,662世帯となり、前回調査に比べ、19万2,547世帯(約7.3%)増加しました。

2 市町村の人口

●人口は、さいたま市の1,222,910人が最も多く、以下川口市500,311人、川越市342,714人と続いています。

●人口増加数では、さいたま市46,596人増が最も多く、以下川口市20,232人増、越谷市10,631人増と続いており、33市町で増加しています。一方、人口が減少したのは、秩父市3,624人減、行田市3,014人減など、31市町村となっています。

●人口増加率では、伊奈町の16.2%が最も高く、次いで滑川町12.3%で、この2町で10%以上の増加となりました。また、7市町で5%以上増加しました。一方、人口減少率は、東秩父村-11.8%が最も高く、小鹿野町-7.2%、小川町-7.1%が続いており、10市町村で5%以上減少しました。

(1) 人口

《人口の多い市町村》

順位	市町村名	人口
1	さいたま市	1,222,910人
2	川口市	500,311人
3	川越市	342,714人

《人口の少ない市町村》

順位	市町村名	人口
1	東秩父村	3,346人
2	長瀨町	7,910人
3	横瀬町	9,037人

(2) 人口増減数

《人口増加数の多い市町村》

順位	市町村名	人口増加数
1	さいたま市	46,596人
2	川口市	20,232人
3	越谷市	10,631人

《人口減少数の多い市町村》

順位	市町村名	人口減少数
1	秩父市	-3,624人
2	行田市	-3,014人
3	小川町	-2,501人

(3) 人口増減率

《人口増加率の高い市町村》

順位	市町村名	人口増加率
1	伊奈町	16.2%
2	滑川町	12.3%
3	八潮市	9.9%

《人口減少率の高い市町村》

順位	市町村名	人口減少率
1	東秩父村	-11.8%
2	小鹿野町	-7.2%
3	小川町	-7.1%

※この速報値は、県内市町村から提出された要計表(調査区域ごとの人口を取りまとめた集計表)を基に埼玉県が集計したものです。したがって、今後、総務省統計局が公表する速報値と一致しない場合があります。